

観光地域づくり法人形成・確立計画

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分	広域連携DMO・ <u>地域連携DMO</u> ・地域DMO	
観光地域づくり法人の名称	公益社団法人栃木県観光物産協会	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	栃木県	
所在地	栃木県宇都宮市本町 3-9 本町合同ビル 1 階	
設立時期	昭和 38 年 2 月 19 日	
職員数	30 人【常勤 30 人（正職員 5 人・出向等 25 人）、非常勤 0 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者）	（氏名） 新井 俊一 （出身組織名） (有)宮の下旅館 （小槌の宿 鶴亀大吉）	平成 24 年から（公社）栃木県観光物産協会の会長として、「栃木県観光振興計画策定懇談会」会長など栃木県内の様々な観光・物産関連の役職を歴任し幅広い人脈にて活躍している。
データ収集・分析等の専門人材（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー）	（氏名） 石川 隆「専従」 （出身組織名） （公社）栃木県観光物産協会	（公社）栃木県観光物産協会で 27 年間、観光全般の担当として様々な誘客事業に携わり、県内の市町観光主管課、地区観光協会、観光事業者等との幅広いネットワークを有する。
財務責任者（CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー）	（氏名） 矢嶋 淳「専従」 （出身組織名） 栃木県	栃木県庁で長年勤務し、組織として調整及び管理能力が高い。持続可能な運営のため、運営収支や財源確保に関する検討を行う。
管理部門の責任者（専門人材）	（氏名） 善林 景子「専従」 （出身組織名） 栃木県	栃木県の観光行政に長く関わり、県内観光業者との人脈も広く、組織として調整及び管理能力が高い。
プロモーション部門の責任者（専門人材）	（氏名） 近藤 秀樹「専従」 （出身組織名） （株）JTB	旅行会社で長年勤務し、本社の部長クラスも経験。観光業界において精通しており、旅行商品の造成・流通や国内外のプロモーション及び観光資源の発掘に高い能力を持つ。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	栃木県産業労働観光部観光交流課 （国内誘客、インバウンド推進、観光地づくり、とちぎ特産振興）及び県庁各課、県内全市町観光主管課（観光振興全般）	
連携する事業者名及び役割	県内地区観光協会 （観光地づくり、受け入れ体制強化、地域連絡調整、県内周遊着地型商品の開発・PR等への協力） 公益社団法人栃木県観光物産協会会員（観光誘客及び物産振興）	

(別添) 様式 1

	<p>県内商工会議所・商工会（多種業者との事業連携） 東日本旅客鉄道(株)、東武鉄道(株)、関東自動車(株) 等（アクセス改善） (株)JTB、近畿日本ツーリスト(株)、県内旅行会社 等（旅行商品造成、誘客） 栃木県旅館ホテル生活衛生同業組合、旅館・ホテル事業者（宿泊） とちぎテレビ、下野新聞 等（マスコミ）</p>						
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>【該当する登録要件】①～③ (概要) ①公益社団法人栃木県観光物産協会は、県内市町観光主管課、県内地区観光協会、観光事業者、宿泊事業者、交通事業者、旅行業者、物産事業者、旅館ホテル組合、商工・農業団体等多様な関係者が会員となり、理事会及び総会において意思決定を行い、合意形成を図っている。 ②県内各5エリア（後述）の連携を図るため、エリア担当者を配置し、定期的に関行される各地域分科会に出席し、情報交換やアドバイスをを行うと共に、当協会ホームページ「とちぎ旅ネット」のアクセスデータの共有・デジタルマーケティングのアドバイスを実施している。 ③県内若手経営者を中心とした民間主体のとちぎ観光地づくり委員会（主なメンバー：小野真 鬼怒川パークホテル代表取締役社長、早川公一郎 足利フラワーリゾート代表取締役社長）を設立し、地域を潤す観点をもちながら、自主自律したDMOの推進を図っている。</p>						
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>地域住民に対する機運醸成は以下の項目に関して、事業と連動し実施を図っている。 ① おもてなしいちご隊の管理運営（県事業との連携） 県民全員でのおもてなしの機運、体制を整えるため、観光の県内の企業、団体、個人等を「おもてなしいちご隊」として募集し登録を行い「おもてなし」を実践することで、本県への更なる誘客促進を図っている。 ② 女性活躍推進・働き方改革の推進 宿泊施設従業員雇用者女性経営対象に多様な働き方を改革させるための女将（観光栃木の魅力を創る「女将の会」会員）向けのセミナー等を実施している。 ③ その他各種セミナー等の観光普及活動を実施</p>						
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)</p> <table border="1" data-bbox="405 1317 1378 2018"> <thead> <tr> <th data-bbox="405 1317 587 1368">事業</th> <th data-bbox="587 1317 1378 1368">実施概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="405 1368 587 1805"> <p>情報発信・プロモーション</p> </td> <td data-bbox="587 1368 1378 1805"> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット事業 既存の観光・物産部門のみならず、商工・農林業団体や市町等との連携を図りながら、ホームページ「とちぎ旅ネット」を運営した。 ・観光マップ発行事業 全県マップを13万5千部作成・配布し、県内各地への誘客促進を図った。 ・観光キャラバン事業 県外のマスコミ、旅行エージェント、バス会社、鉄道会社等に対し、本県への更なる誘客促進に向けた観光キャラバンを実施した。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="405 1805 587 2018"> <p>受入環境の整備</p> </td> <td data-bbox="587 1805 1378 2018"> <ul style="list-style-type: none"> ・おもてなしいちご隊事業 県内の企業、団体、個人等を「おもてなしいちご隊」として募集し登録を行い、「おもてなし」を実践することで、本県への更なる誘客促進を図った。 ・令和元年度地域における観光産業の実務人材確保・育成事業（観光庁採択事業） </td> </tr> </tbody> </table>	事業	実施概要	<p>情報発信・プロモーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット事業 既存の観光・物産部門のみならず、商工・農林業団体や市町等との連携を図りながら、ホームページ「とちぎ旅ネット」を運営した。 ・観光マップ発行事業 全県マップを13万5千部作成・配布し、県内各地への誘客促進を図った。 ・観光キャラバン事業 県外のマスコミ、旅行エージェント、バス会社、鉄道会社等に対し、本県への更なる誘客促進に向けた観光キャラバンを実施した。 	<p>受入環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなしいちご隊事業 県内の企業、団体、個人等を「おもてなしいちご隊」として募集し登録を行い、「おもてなし」を実践することで、本県への更なる誘客促進を図った。 ・令和元年度地域における観光産業の実務人材確保・育成事業（観光庁採択事業）
事業	実施概要						
<p>情報発信・プロモーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット事業 既存の観光・物産部門のみならず、商工・農林業団体や市町等との連携を図りながら、ホームページ「とちぎ旅ネット」を運営した。 ・観光マップ発行事業 全県マップを13万5千部作成・配布し、県内各地への誘客促進を図った。 ・観光キャラバン事業 県外のマスコミ、旅行エージェント、バス会社、鉄道会社等に対し、本県への更なる誘客促進に向けた観光キャラバンを実施した。 						
<p>受入環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなしいちご隊事業 県内の企業、団体、個人等を「おもてなしいちご隊」として募集し登録を行い、「おもてなし」を実践することで、本県への更なる誘客促進を図った。 ・令和元年度地域における観光産業の実務人材確保・育成事業（観光庁採択事業） 						

	<p>人材の採用に関する事業及び人材の定着に関する事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度バリアフリー旅行相談窓口設置に係る実証事業（観光庁採択事業） バリアフリー旅行相談窓口のホームページを制作し、バリアフリーの情報提供を行った。 観光業経営者対象セミナー開催事業 観光業の業務の効率化や経営力の強化のための担い手育成を支援し、宿泊施設や観光施設等におけるIT活用やインバウンド対応等に向けたセミナー、コロナウイルス対策のセミナーを開催。 <p>観光資源の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業（関東運輸局採択事業）への協力 那須エリアでの滞在型コンテンツ（主に欧米豪対象）を造成するため、受託事業者が実施する協議会・事業者研修・通訳案内士研修・ファムトリップ等に協力し、既存の滞在型コンテンツ等の磨き上げを行った。 地域連携観光地づくり支援事業 昨年度、国が実施した那須ネイチャープログラム造成事業等を発展的に継続し、那須地域及び他地域における観光地づくりの組織化及び事業実施を支援している。 	
	<p>(定量的な評価)</p> <p>○延べ宿泊者数 平成 29 年 8,360 千人 平成 30 年 8,269 千人 令和元年 8,257 千人 (対前年比 99.9%)</p> <p>※出典：栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果</p> <p>○延べ外国人宿泊者数 平成 29 年 222 千人 平成 30 年 223 千人 令和元年 247 千人 (対前年比 110.8%)</p> <p>※出典：栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果</p> <p>○延べ観光客宿泊数 平成 29 年 92,768 千人 平成 30 年 95,436 千人 令和元年 92,282 千人 (対前年比 96.7%)</p> <p>※出典：栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果</p>	

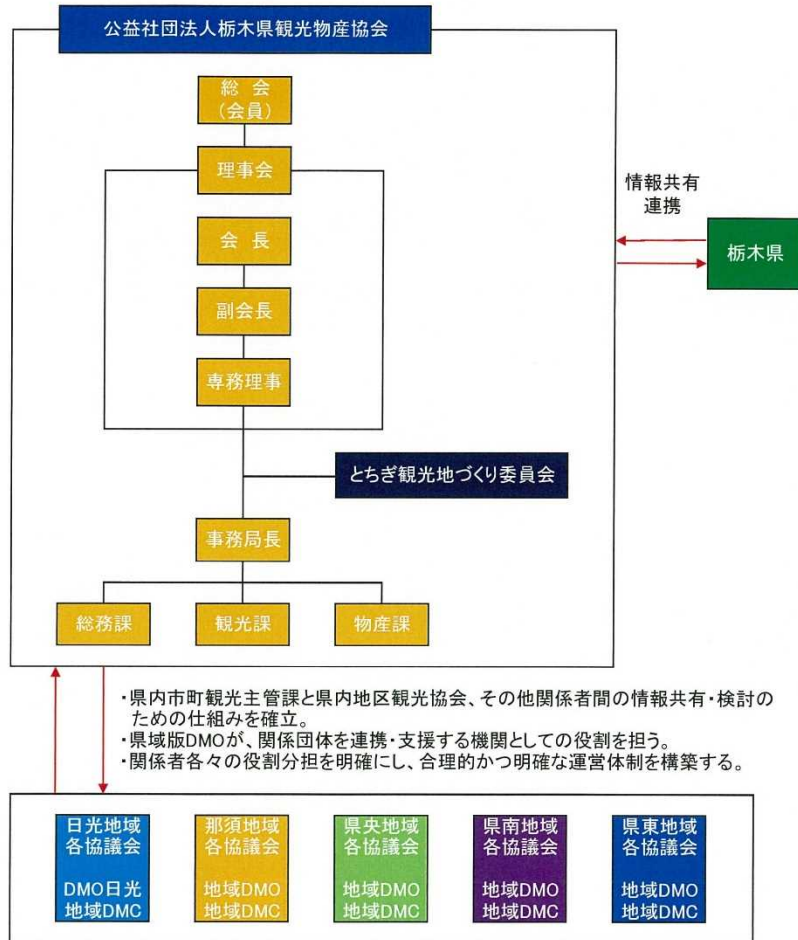
(別添) 様式 1

実施体制

(実施体制の概要)

(公社) 栃木県観光物産協会が主体となり、とちぎ観光地づくり委員会のメンバーには、行政、宿泊業者、飲食業者など多様な関係者が参画するなど官民が密接に連携した運営を実施していく。「地域を潤す」自主自律したDMOを目指している。

(実施体制図)



2. 観光地域づくり法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】 栃木全域（5エリア）



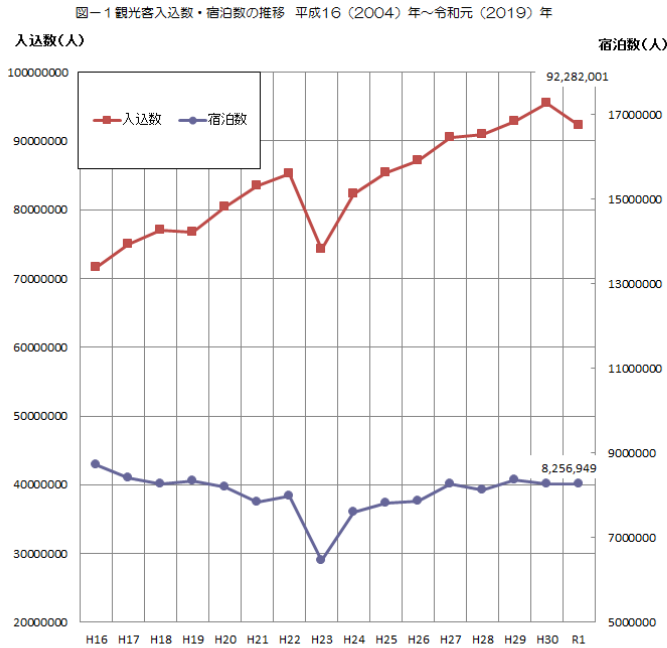
(別添) 様式 1

【区域設定の考え方】

栃木県では、平成 25 年から県内を 5つの地域（日光・那須・県央・県南・県東）で区域設定しており、各地域において市町を跨った地域分科会ができています。各区域は、特色ある歴史・文化や自然環境、温泉資源などそれぞれにおいて構築されており、それらを活用し、共通のテーマ設定やターゲット繋いで5地域を跨ぐモデルルート等を作成している。

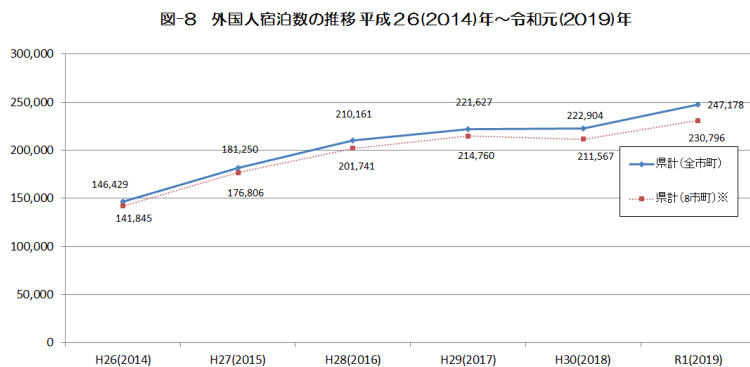
【観光客の実態等】

○観光客入込数・宿泊数の推移



とちぎ観光立県
戦略目標（令和2）
観光客入込数：9,700万人
観光客宿泊数：880万人

○外国人宿泊数の推移



とちぎ観光立県
戦略目標（令和2）
外国人宿泊数：30万人

(別添) 様式 1

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

①エリア特徴

- 日光エリア：国内外に認知度の高い世界遺産「日光の社寺」を有する日光エリア。またいろは坂の先の奥日光では、中禅寺湖や華厳ノ滝などの豊富な水資源と合わせて、「英国大使館別荘記念公園」「イタリア大使館別荘記念公園」など外国人の避暑地として面影を伝える建物が今も残っている。また、鬼怒川温泉、川治温泉、湯西川温泉など、多くの名湯と宿泊施設があり、下今市から鬼怒川温泉までSL「大樹」に乗車できる。
- 那須エリア：塩原温泉、那須温泉、板室温泉など多彩な源泉をもち、温泉エリアとして国内として認知度が高い。本州日本一の乳製品の産品が多く、牧場や遊園地などの観光施設もあり、ファミリーが多く訪れている。冬季にはスキー場も賑わう。
- 県央エリア：栃木県の中央を東西に貫く県央エリア。県庁所在地で、餃子で有名な宇都宮は、神秘的な地下空間の産業遺産「大谷資料館」が人気を高めている。また、平成28年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された、鹿沼市の「鹿沼秋まつり」、那須烏山市の「山あげ祭」など世界に誇れる文化遺産が注目をされている。
- 県南エリア：あしががフラワーパークは、年々国内外から集客を伸ばしており、CNNが選出した「平成26年の世界の夢の旅行先10カ所」に日本で唯一選ばれた。また、平成27年4月に「日本遺産」に認定された足利市の日本最古の学校「史跡足利学校」、国宝「饗阿寺」などの周辺や栃木市の街中を流れる巴波川沿いに残る、歴史ある蔵の街並みは、町歩きで人気を呼んでいる。
- 県東エリア：日本でも数少ないSL「もおか」(真岡鐵道)に乗車でき、最新のテクノロジーを詰め込んだモータースポーツ観戦ができる「ツインリンクもてぎ」など、新旧の顔を持つ県東エリア。海外からのお客様も多い「益子焼」の体験ができるスポットもある。自然も豊かで、ハイキングを楽しめる山や季節の花々も楽しめます。

②エリア

エリア	観光施設	温泉地	自然	文化・歴史	イベント
日光	日光江戸村、東武ワールドスクエア、鬼怒川ライン下り、SL大樹(東武鉄道)、エーデルワイススキーリゾート湯西川ダム水陸両用バスダックツアー、平家の里、足尾銅山観光	日光温泉、中禅寺温泉、日光湯元温泉、鬼怒川温泉、川治温泉、湯西川温泉、川俣温泉、奥鬼怒温泉	いろは坂、華厳ノ滝、中禅寺湖、男体山、●戦場ヶ原、●小田代原、●湯の湖、●湯川、霧降高原、龍王峡、瀬戸合峡、鬼怒沼	★日光東照宮、★日光二荒山神社、★日光輪王寺田母沢御用邸記念公園、日光植物園、日光自然博物館、英国大使館別荘記念公園、イタリア大使館別荘記念公園、日光杉並木街道	弥生祭、日光東照宮春季例大祭・秋季大祭、平家大祭、龍王祭、日光そばまつり、湯西川温泉かまくら祭
那須	栃木県ながわ水遊園 ☆千本松牧場、那須ガーデンアウトレットハンターマウンテン塩原、もみじ谷大吊橋、那須フィッシュランド、板室ダム湖カヌー体験ツアー ☆南ヶ丘牧場、那須ハイランドパーク、那須りんどう湖レイクビュー、那須どうぶつ王国、那須サファリパーク、那須ロープウェイマウントジーンズ 那須那須フラワーワールド	那須温泉郷、塩原温泉郷、板室温泉	八方ヶ原、おしらじの滝、沼ッ原湿原、回顧の滝、日塩もみじライン、尚仁沢湧水、茶臼岳、八幡のつつじ殺生石、那須平成の森	大雄寺、☆旧青木家那須別邸、☆大山別邸、☆松方別邸、☆山縣有朋記念館、藤城清治美術館	大田原屋台まつり、塩原温泉ぼたんまつり、つつじまつり、御神火祭、芭蕉の里くろばね紫陽花まつり、ハンターマウンテンゆり博、与一まつり、那須野巻狩まつり

(別添) 様式 1

県央	ろまんちっく村、 若竹の杜 若山農場、 鹿沼市花木センター、 島崎酒造の どうくつ酒蔵 鬼怒グリーンパーク、 高瀬観光やな	喜連川温泉、 馬頭温泉	大芦溪谷、 井戸湿原、 龍門の滝、 きつれ川ポピー畑、 鬼怒グリーンパーク	☆大谷資料館、 ☆カトリック 松が峰教会、 二荒山神社、 古峯神社、 烏山和紙(体験)、 ○境橋	若竹の杜 若山農場 ライトアップ、 鹿沼さつき祭り、 山あげ祭、 ふるさと宮まつり、 うつのみ や花火大会、 かみのかわ サンフラワー祭り、 鹿沼秋まつり、 宇都宮餃子まつり、 氏家雛めぐり
県南	あしかがフラワーパーク、 大平ぶどう団地 (ぶどう狩り) 佐野プレミアム・アウトレット いちごの里 おもちゃのまち バンドミュージアム		行道山、太平山 ●渡良瀬遊水地 三轟山、 出流原弁天池	☆史跡足利学校、 鏝阿寺、蔵の街、 出流山満願寺、 佐野厄よけ大師、 野木ホフマン館	かたくりの 花まつり、 天平の花まつり、 ふじのはな物語 ～大藤まつり～ 間々田の じゃがまいた、 名草ホテルまつり、 とちぎあじさい まつり、 ひまわりフェスティバル、 小山の花火、 足利花火大会、 とちぎ秋まつり、 光の花の庭～ フラワーファンタジー～ グリムの森 イルミネーション おもちゃ団地 チャリティイベント
県東	SL もおか (真岡鐵道) 井頭公園、 JA はが野益子 観光いちご団地、 ツインリンクもてぎ、 大瀬観光やな	益子温泉	市貝町芝ざくら公園 焼森山 ミツマタ群生地	岡部記念館金鈴荘、 益子焼(体験)、 大畑武者絵資料館 入野家住宅	真岡の一万本 桜まつり 芝ざくらまつり、 春・秋の 益子陶器市、 ローズフェスタ、 あじさい祭り、 真岡の夏まつり、 コスモス祭り、 真岡・浪漫ひな飾り

- ★印：世界文化遺産構成文化財
- 印：ラムサール条約湿地
- ☆印：日本遺産構成文化財
- 印：全国近代化遺産

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

	宿泊施設数	宿泊室数
日光エリア	377	9,025
那須エリア	872	12,744
県央エリア	250	8,242
県南エリア	183	4,595
県東エリア	65	1,271
合 計	1,747	35,877

(別添) 様式 1

【利便性：区域までの交通、域内交通】

○鉄道

首都圏からは東北新幹線・東武鉄道にてアクセスが良く県内各地を訪れることが可能。

- ・「宇都宮駅」まで東京駅からJR東北新幹線で49分
- ・「小山駅」まで上野駅からJR東北新幹線で36分、宇都宮線（普通列車）で76分
- ・「那須塩原駅」まで東京駅からJR東北新幹線で72分
- ・「鬼怒川温泉駅」まで浅草駅から東武鉄道特急で119分
- ・「東武日光駅」まで浅草駅から東武鉄道特急で112分

○自動車

首都圏からは東北自動車道、北関東自動車道ならびに圏央自動車の開通により近県からのアクセスが良好。

- ・「佐野藤岡IC」まで東北道川口JCTから59.2km 45分
- ・「宇都宮IC」まで東北道川口JCTから103km 60分
- ・「日光IC」まで東北道川口JCTから128.9km 87分
- ・「宇都宮IC」まで圏央道開通により成田空港から158km 120分

○二次交通

日光エリア、那須エリアにおいては、定期観光バスや観光タクシー、観光周遊バスなどが運行している。また、試験的ではあるが、平成29年春から平成31年春まで日光エリアと那須エリアを繋ぐ会員バスの運行も実施した。また、県央エリアの宇都宮では、地元バス会社の既存路線バスを活用した、「餃子」や「大谷資料館」などを楽しめる企画乗車券を造成している。

他のエリアについては、レンタサイクリングの導入など取組は進んでいるものの、路線バスの利便性向上やエリアを跨ぐ二次交通の整備が大きな課題となっている。

【外国人観光客への対応】

- ・県内にはJNTO認定外国人観光案内所が24カ所設置されており、外国人向けの観光案内に対応できる環境が整備されている。また、国立公園満喫プロジェクトにおける日光国立公園を有しており、今後世界遺産二社一寺だけでなく、「自然」や「体験」を活かしたコンテンツを創出していく。
- ・案内標識の多言語化、無料公衆無線LAN環境の整備、観光案内所などの情報提供体制の充実、免税やクレジット決済対応可能店舗の拡充など、外国人観光客の受入環境整備に取り組んでいる。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
観光消費額	事業効果の測定及び改善に向けたデータとして活用する。	観光庁「共通基準による全国観光入込客統計」
延べ宿泊者数	同 上	栃木県「栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査」
来訪者満足度	同 上	栃木県「栃木県観光動態調査」
リピーター率	同 上	同 上
外国人宿泊数	同 上	栃木県「栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査」
WEBサイトアクセス数 (ページビュー数)	同 上	(公社) 栃木県観光物産協会HP 「とちぎ旅ネット」
DMOとしての事業構築数	新規事業を構築し、新たな観光サービスを提供し続ける。	事業実走での調査を実施する。

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

栃木県では、平成 30 年に J R 6 社のデスティネーションキャンペーンを実施し、環境省国立公園満喫プロジェクト等にも選定され、現在観光による誘客強化を官民連携・観光業界全体で図っている。

栃木県としても観光入込客数だけでなく、宿泊者数を重視しており、今後受け手となる旅館・ホテルや観光施設の人材の採用・定着化が重要課題である。

栃木県内の各観光地・温泉地での観光人材が不足しており、高度な経営マネジメント人材も不足し、今後持続的な観光地を発展させていくためにも観光人材の確保と育成が急務となっている。

このため、令和元年度はこうした地域の課題に対し、とちぎDMOを中心として「地域における観光産業の実務人材確保・育成事業（観光庁採択事業）」を実施した。

栃木県内観光地の人材確保のために、大学や専門学校等の学生をターゲットとして、観光人材採用につながるプロモーション動画・WEBサイトの作成や、県内温泉地や観光施設におけるインターンシップの実施、就職説明会への参加、とちぎDMOのメンバーによる講座等の事業を実施した。観光業経営者等を対象とした観光業担い手育成のためのセミナー事業の一環として、コロナウイルス対策として除菌作業セミナーを行った。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国立公園満喫プロジェクトに選定されている「日光」の高い認知度と豊かな自然・景観と「那須」のロイヤルリゾートのブランドイメージ ■ 世界遺産「日光の社寺」の集客力 ■ 「奥日光の湿原」「渡良瀬遊水地」のラムサール条約湿地 ■ 日光、鬼怒川、川治、湯西川、川俣、奥鬼怒、那須、塩原、板室等の豊富な温泉資源 ■ 県内2つのアウトレット、牧場、テーマパーク等の充実したエンターテインメント施設 ■ 小山・鹿沼・那須烏山のユネスコ無形文化遺産登録 ■ 足利学校、大谷石文化（宇都宮市）、那須野が原開拓浪漫譚（那須塩原市、矢板市、大田原市、那須町）、の日本遺産 ■ 東北新幹線から県内へダイレクト・アクセス ■ 高速道路網整備によるアクセス向上 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 二次交通網の整備率の低さ ■ スキーリゾートの厳しい経営環境 ■ 十分に活用しきれていない観光資源の存在 ■ 資源群の点在化からなる周遊ルートの未整備 ■ 活用しきれていない日光・那須の観光集客力 ■ 人口減少や少子化による観光地経営の持続性低下の懸念 ■ 「栃木県」の海外における認知度の低さ
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 訪日外国人の増加 ■ 令和元年JRのアフターデスティネーションキャンペーン ■ 圏央道全通による誘客エリア拡大 ■ 令和3年東京オリンピック・パラリンピック ■ 令和4年いちご一会とちぎ国体開催 ■ 令和4年宇都宮市にLRT開通予定 ■ 東京圏からの移住者増加 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 人口減少による国内市場の縮小 ■ 高速道路網の発達による近県自治体間の観光の競合 ■ 激化するインバウンド市場の争奪 ■ 観光人材の不足

(3) ターゲット

<p>○第1ターゲット層 (国内) 首都圏・近県（福島・宮城など） (海外) 【顕在需要】台湾・香港の訪日リピーター層 【成長領域】EU諸国及びアメリカ</p>
<p>(国内) 首都圏・近県（福島・宮城など） ○選定の理由 4,000万人マーケット＝日本最大の人口ボリュームゾーンであり、鉄道網・高速道路網の整備により、首都圏・近県からのアクセスが良好。</p>

(別添) 様式 1

○取組方針

未だ伝わり切れていない「栃木県観光の魅力」の奥深さやアクセスの良さを訴求し、来訪・再来訪の関心を醸成する。また、非来訪者のニーズ等を調査し、対策を図ることで他観光地に勝てる環境・仕組化を推進する。

(海外) 台湾・香港の訪日リピーター層

○選定の理由

訪日旅行のリピーター率が高い地域であり、県の海外誘客拠点のある台湾・香港を選定。

○取組方針

首都圏・羽田空港・成田空港からのアクセスの良さ・至近性と、「世界遺産」「ラムサール条約湿地」「ユネスコ無形文化遺産」といった世界的にも評価が高い資源が豊富であることを訴求。

また、令和元年11月から外国人材活用インバウンド推進事業を実施し、国が新たに創設した「外国人による地方創生支援制度」を活用して即戦力となる外国人材(台湾出身)1名を採用し、外国人目線による県内観光資源の発掘・PR等の実施や、現地旅行会社等との連絡調整など、効果的な誘客活動を行い、外国人観光客数の一層の増加を図る。

○第2ターゲット層

(国内) 中部圏・関西圏

(海外) 東南アジア諸国

(国内) 中部圏・関西圏

○選定の理由

中部圏(愛知県・岐阜県・三重県)は人口1,133万人、関西圏(大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県)は人口2,072万人と、首都圏の次につづく人口ボリュームゾーンであり、また、栃木県と連携して平成28年から旅行会社に向けたプロモーションを実施している。自動車やバスは、圏央道の開通により、都心を経由せずにアクセスすることも良好。

○取組方針

首都圏と比べると、認知度・イメージが弱い中部圏・関西圏においては、未だ伝わり切れていない「栃木県の観光の魅力」の奥深さやアクセスの良さを訴求し、栃木県大阪センターと連携し、特に宿泊観光に繋がられるよう旅行会社との連携も行う。

(海外) 東南アジア諸国


○選定の理由

中産階級の増加が著しい東南アジア。今後経済の成長と共に来訪者数が大きく増加する事が期待できる。これまでも、栃木県と連携して「タイ」、「ベトナム」、「インドネシア」等にてプロモーションやセールスコールを実施している。

○取組方針

アクセスの良さ・東京からの至近性と、世界的にも評価が高い観光資源が豊富であること、四季によって変わる日本の自然景観等に人気があり、栃木県の自然が織りなすアクティビティー、体験スポットや伝統体験などを現地旅行会社へプロモーションする。

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	本物の出会い 栃木 
②コンセプトの考え方	栃木県は、都会近くでありながら、自然、食、歴史・文化など「本当にいいもの、いいこと(=本物)」が豊かな地域である。そして、「本物」を守り、創り出す素晴らしい「人」たちがいる。県内各地を訪れると、こうした「本物」や「人」との出会いを通して、感動、実感、共感できることが本県の魅力であり、その出会いこそが「本物の出会い」である。 その人ならではの「本物の出会い」を見つけてもらうため、たくさんの人に、何度も本県を訪れていただき、県内各地を周遊してもらうことで、観光消費を高め、地域が潤う観光地づくりを関係者が連携して進める。また、県内観光従事者が楽しみながら、観光来訪者を楽しませることができる観光地づくりを推進していく。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	理事会、総会、とちぎ観光地づくり委員会、各地域分科会 DMOを中心として、地域の関連事業者を集めてコミュニケーションの場を3ヶ月に1回程度設け、とちぎ観光地づくり委員会を開催するとともに、関連事業者に対してのコンサルティング等を実施している。 理事会(年2回)や総会(年1回)の場で、多様な関係者とコミュニケーションを図ることで、戦略の共有を実施している。観光振興を目的として栃木県内市町が参画した地域分科会などをコミュニケーションの場とするとともに、各地域の関連事業者・DMOとも連携している。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	とちぎ観光おもてなし条例に呼応し、国内外の観光客に対応できるよう、観光事業者、観光関連団体への普及啓発やセミナー等を支援する。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	当協会が構築・運営しているホームページ「とちぎ旅ネット」を中心に、地域の情報を集約し、全県の一元的な観光情報の発信機能強化を図り、あわせてSNSを活用し、日本語のみならず、多言語で効果的なプロモーションを実施。

(別添) 様式 1

	<p>「観光写真ダウンロード」(フォトライブラリー)の充実を図り、将来的には、県産品から着地型旅行商品の販売までに繋げていく。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で観光キャラバン等のプロモーションが中止となっている。</p>
--	--

6. KPI (実績・目標)

(1) 必須KPI

指標項目		2017 (H29) 年度	2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	5,170 (90)	5,200 (100)	6,530 (110)	6,650 (120)	6,750 (130)	6,850 (140)
	実績	6,283 (98)	6,297 (106)	集計中 ()	()	()	()
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	8,500 (220)	8,600 (222)	8,630 (225)	8,800 (250)	8,900 (260)	9,000 (270)
	実績	8,360 (222)	8,269 (223)	8,257 (247)	()	()	()
●来訪者満足度 (%)	目標	85 ()	87 ()	86 ()	90 ()	90 ()	90 ()
	実績	86.2 ()	83.1 ()	89.5 ()	()	()	()
●リピーター率 (%)	目標	80 ()	85 ()	90 ()	90 ()	91 ()	92 ()
	実績	79.8 ()	87.9 ()	88.3 ()	()	()	()

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※旅行消費額は、観光庁の「全国観光入込客統計に関する共通基準 集計表」をKPI指標とする。

※延べ宿泊者数は、栃木県の「栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果」をKPI指標とする。

※来訪者満足度は、栃木県の「栃木県観光動態調査」の来訪者満足度調査で、「大変満足」、「ほぼ満足」と回答した割合をKPI指標とする。

※リピーター率は、栃木県の「栃木県観光動態調査」の来訪回数調査で、「2回目」、「3回目」、「4回目」、「5回以上」と回答した数値をKPI指標とする。

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

観光庁及び栃木県観光統計を必須KPIとして設定している。政策連動を行い、同じ目標(KPI)を達成するために協会としての事業を連動し、地区観光協会も連動するサポートも実施。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

数値目標は栃木県の「とちぎ観光立県戦略」に合わせて設定した。日帰り・宿泊者数の規模だけでなく、地域経済の波及効果度・高付加価値化を進めるためにも単価を上げる自助努力を促していく。

●延べ宿泊者数

数値目標は栃木県の「とちぎ観光立県戦略」に合わせて設定した。観光消費額の核となる宿泊者数の維持を図る。また、宿泊単価に拘りの意識を持つ。

●来訪者満足度

数値目標は栃木県の「栃木県観光動態調査」の総合満足度の実績に基づき、向上を図るよう算出した。来訪者満足度は非常に高い水準にあるが、これを維持し向上を図る。また、おもてなしいちご隊の県民運動も実施しており、オールとちぎでのおもてなし水準の指針とする。

●リピーター率

数値目標は栃木県の「栃木県観光動態調査」の来訪回数調査の実績に基づき、向上を図るよう算出した。8割以上のリピーター化が図れているが、リピーターの来訪頻度には、ばらつきがある。これを頻度高くさせるための政策を検討していく必要と検討している。

(別添) 様式 1

(2) その他の目標

指標項目		2017 (H29) 年度	2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度
●日本語サイト アクセス数 (千PV)	目標	5,000 ()	6,000 ()	7,400 ()	7,700 ()	8,000 ()	8,300 ()
	実績	5,301 ()	7,056 ()	7,030 ()	() ()	() ()	() ()
●英語サイト アクセス数 (PV)	目標	100,000 ()	110,000 ()	120,000 ()	127,000 ()	133,000 ()	135,000 ()
	実績	101,926 ()	115,651 ()	117,616 ()	() ()	() ()	() ()
●繁体字サイト アクセス数 (PV)	目標	100,000 ()	110,000 ()	120,000 ()	130,000 ()	136,000 ()	140,000 ()
	実績	100,344 ()	117,625 ()	110,790 ()	() ()	() ()	() ()
●簡体字サイト アクセス数 (PV)	目標	10,000 ()	11,000 ()	11,600 ()	12,000 ()	12,500 ()	13,000 ()
	実績	9,472 ()	11,079 ()	14,366 ()	() ()	() ()	() ()
●韓国語サイト アクセス数 (PV)	目標	18,000 ()	20,000 ()	20,000 ()	21,000 ()	22,000 ()	23,000 ()
	実績	19,308 ()	19,227 ()	12,831 ()	() ()	() ()	() ()
●タイ語サイト アクセス数 (PV)	目標	25,000 ()	27,000 ()	29,000 ()	30,000 ()	32,000 ()	34,000 ()
	実績	25,738 ()	27,467 ()	22,968 ()	() ()	() ()	() ()
●仏語サイト アクセス数 (PV)	目標	1,000 ()	2,500 ()	2,850 ()	3,000 ()	3,150 ()	3,300 ()
	実績	1,456 ()	2,720 ()	1,924 ()	() ()	() ()	() ()
●物産の売上額 (千円)	目標	310,000 ()	320,000 ()	330,000 ()	335,000 ()	340,000 ()	345,000 ()
	実績	313,685 ()	326,324 ()	300,648 ()	() ()	() ()	() ()

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
 ※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

デジタルマーケティングを強化するため、当協会のとちぎ旅ネットのアクセス数（PV）を指標の一つとして設定している。また、当協会の安定的な運営のため、物産の売上額を指標の一つとして設定している。

【設定にあたっての考え方】

●WEBアクセス数

デジタル化が進む中で、デジタルでの旅前の認知度、選択候補に入ることを強化するためにWEBアクセス数を維持・向上させていきたい。

●物産の売上額

県産品の振興を図るとともに、当協会の安定的な運営のために、物産の売上高をさらに伸ばすことで、当協会の財源確保を図っていく。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年（年度）	総収入（円）	内訳
2017（H29） 年度	336,717,726（円）	【県からの補助金】 47,858,000（円） 【観光キャンペーン推進協議会からの補助金】 498,000（円） 【県からの委託料】 46,206,946（円） 【DC実行委員会・観光キャンペーン推進協議会からの委託料】 30,589,828（円） 【収益事業】 192,031,885（円） 【会費】 13,777,000（円） 【その他（基本財産運用益、特定資産運用益、受取負担金、受取賃借料）】 5,756,067（円）
2018（H30） 年度	299,713,671（円）	【県からの補助金】 50,667,000（円） 【観光キャンペーン推進協議会からの補助金】 641,900（円） 【県からの委託料】 35,397,514（円） 【DC実行委員会・観光キャンペーン推進協議会からの委託料】 26,439,429（円） 【収益事業】 167,760,396（円） 【会費】 13,710,000（円） 【その他（基本財産運用益、特定資産運用益、受取負担金、受取賃借料）】 5,097,432（円）
2019（R1） 年度	283,880,849（円）	【国からの補助金】 4,513,469（円） 【県からの補助金】 48,591,000（円） 【観光キャンペーン推進協議会からの補助金】 639,930（円） 【県からの委託料】 28,068,597（円）

(別添) 様式 1

		<p>【DC 実行委員会・観光キャンペーン推進協議会からの委託料】 26,783,775 (円)</p> <p>【収益事業】 157,489,819 (円)</p> <p>【会費】 13,463,000 (円)</p> <p>【その他 (基本財産運用益、特定資産運用益、受取負担金、受取賃借料)】 4,331,259 (円)</p>
2020 (R 2) 年度	250,805,000 (円)	<p>【県からの補助金】 44,816,000 (円)</p> <p>【観光プロモーション協議会からの補助金】 600,000 (円)</p> <p>【県からの委託料】 29,356,000 (円)</p> <p>【観光プロモーション協議会からの委託料】 10,885,000 (円)</p> <p>【収益事業】 147,059,000 (円)</p> <p>【会費】 13,659,000 (円)</p> <p>【その他 (基本財産運用益、特定資産運用益、受取負担金、受取賃借料)】 4,430,000 (円)</p>
2021 (R 3) 年度	250,805,000 (円)	<p>【県からの補助金】 44,816,000 (円)</p> <p>【観光プロモーション協議会からの補助金】 600,000 (円)</p> <p>【県からの委託料】 29,356,000 (円)</p> <p>【観光プロモーション協議会からの委託料】 10,885,000 (円)</p> <p>【収益事業】 147,059,000 (円)</p> <p>【会費】 13,659,000 (円)</p> <p>【その他 (基本財産運用益、特定資産運用益、受取負担金、受取賃借料)】 4,430,000 (円)</p>
2022 (R 4) 年度	250,805,000 (円)	<p>【県からの補助金】 44,816,000 (円)</p> <p>【観光プロモーション協議会からの補助金】 600,000 (円)</p> <p>【県からの委託料】 29,356,000 (円)</p> <p>【観光プロモーション協議会からの委託料】 10,885,000 (円)</p> <p>【収益事業】 147,059,000 (円)</p> <p>【会費】 13,659,000 (円)</p> <p>【その他 (基本財産運用益、特定資産運用益、受取負担金、受取賃借料)】 4,430,000 (円)</p>

(別添) 様式 1

		【観光物産イベントの開催費】 11,860,000 (円) 【その他】 128,581,000 (円)
2022 (R4) 年度	262,326,000 (円)	【一般管理費】 4,494,000 (円) 【情報発信・プロモーション】 101,185,000 (円) 【受入環境整備等の着地整備】 3,017,000 (円) 【コンテンツ開発 (観光資源の磨き上げ)】 2,940,000 (円) 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 10,249,000 (円) 【観光物産イベントの開催費】 11,860,000 (円) 【その他】 128,581,000 (円)

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・ 会員数増による自主財源の確保
- ・ 観光庁等の公募事業の活用による事業構築と拡大
- ・ 県産品や着地型旅行商品の販売による収益拡大
- ・ 栃木県からの補助金の確保

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

栃木県は、公益社団法人栃木県観光物産協会を栃木県における地域連携DMOの活動に支援・協力します。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	石川 隆
担当部署名 (役職)	(公社) 栃木県観光物産協会 観光課 (課長代理)
郵便番号	320-0033
所在地	栃木県宇都宮市本町 3-9
電話番号 (直通)	028-623-3213
F A X 番号	028-623-3942
E - m a i l	takashi.ishikawa@tochigiji.or.jp

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

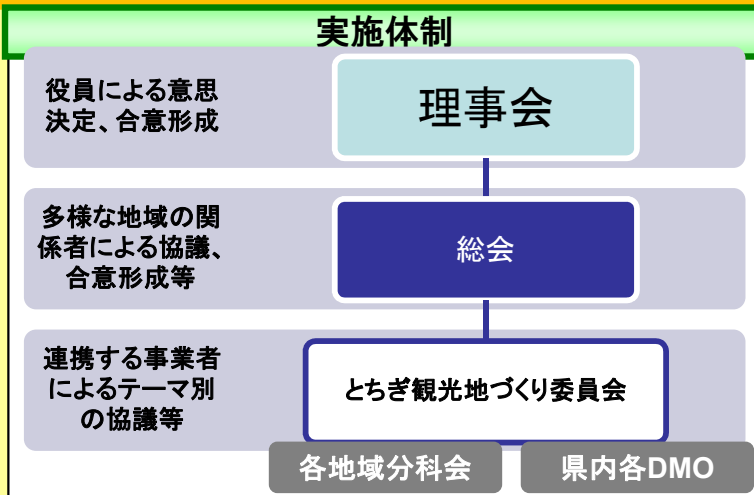
都道府県・市町村名	栃木県
担当者氏名	毛塚 隆弘
担当部署名 (役職)	産業労働観光部観光交流課 観光地づくり担当 (課長補佐 GL)
郵便番号	320-8501
所在地	栃木県埴田 1-1-20
電話番号 (直通)	028-623-3213
F A X 番号	028-623-3306
E - m a i l	kezukat2001@pref.tochigi.lg.jp

都道府県・市町村名	栃木県
担当者氏名	丹野 佳奈
担当部署名 (役職)	産業労働観光部観光交流課 観光地づくり担当 (主査)
郵便番号	320-8501
所在地	栃木県埴田 1-1-20
電話番号 (直通)	028-623-3213
F A X 番号	028-623-3306
E - m a i l	tannok01@pref.tochigi.lg.jp

法人名:公益社団法人 栃木県観光物産協会
登録区分名:地域連携DMO

(観光地域づくりのコンセプトを記載)

【区域】 栃木県
 【設立日】 昭和38年2月19日
 【登録日】 令和2年1月14日
 【代表者】 新井 俊一
 【マーケティング責任者(CMO)】
 石川 隆
 【財務責任者(CFO)】
 矢嶋 淳
 【職員数】 30人
 (常勤30人(正職員5人・出向等25人)、非常勤0人)
 【連携する主な事業者】
 栃木県、県内市町観光担当課、県内地区観光協会、
 観光物産関連事業者、交通事業者、商工・農業団体 他



マーケティング・マネジメントする区域

【主な観光資源】
 世界遺産「日光の社寺」、
 湯西川温泉かまくら祭、
 鬼怒川温泉、塩原温泉、
 那須温泉、宇都宮餃子、
 あしががフラワーパーク

合意形成の仕組み

【該当する登録要件】第20070号
 【概要】
 県内市町観光主管課、県内地区観光協会、観光事業者、宿泊事業者、交通事業者、旅行業者、物産事業者、旅館ホテル組合、商工・農業団体等多様な関係者が会員となり、理事会及び総会において意思決定を行い、合意形成を図っている。

戦略

【主なターゲット】
 (国内)首都圏・近県
 (海外)台湾・香港の訪日リピーター層

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
 (国内)
 「栃木県観光の魅力」の奥深さやアクセスの良さを訴求し、来訪・再来訪の関心を醸成する。また、非来訪者のニーズ等を調査し、対策を図ることで他観光地に勝てる環境・仕組化を推進する。
 (海外)
 首都圏・羽田空港・成田空港からのアクセスの良さ・至近性と、「世界遺産」「ラムサール条約湿地」「ユネスコ無形文化遺産」といった世界的にも評価が高い資源が豊富であることを訴求する。

KPI(実績・目標) ※()内は訪日外国人旅行者に関する数値

項目	2017 (H29) 年度	2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度
旅行消費額 (百万円)	目標	5,170 (90)	5,200 (100)	6,530 (110)	6,650 (120)	6,750 (130)
	実績	6,283 (98)	6,297 (106)	集計中 ()	()	()
延べ宿泊者数 (千人)	目標	8,500 (220)	8,600 (222)	8,630 (225)	8,800 (250)	8,900 (260)
	実績	8,360 (222)	8,269 (223)	8,257 (247)	()	()
来訪者満足度 (%)	目標	85 ()	87 ()	86 ()	90 ()	90 ()
	実績	86.2 ()	83.1 ()	89.5 ()	()	()
リピーター率 (%)	目標	80 ()	85 ()	90 ()	90 ()	91 ()
	実績	79.8 ()	87.9 ()	88.3 ()	()	()

法人のこれまでの活動実績

【情報発信・プロモーション】
 ・インターネットなどを活用した観光、物産情報の収集、提供事業
 ・観光マップ発行事業
 ・観光キャラバン事業

【観光資源の磨き上げ】
 ・訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業への協力
 ・地域連携観光地づくり支援事業

【受入環境の整備】
 ・おもてなしいちご隊事業
 ・観光産業の実務人材確保・育成事業
 ・バリアフリー実証事業
 ・観光業経営者対象セミナー開催事業

観光関連事業者と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

多様な関係者との戦略の共有状況等
 ①理事会及び総会において意思決定を行い、合意形成を図っている。
 ②県内若手経営者を中心とした民間主体のとちぎ観光地づくり委員会を設立し、DMO推進を図っている。

活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

【主な収入】 栃木県補助金収入(48百万円)、県受託事業収入(28百万円)、「本物の出会い 栃木」DC実行委員会受託事業収入(25百万円)、収益事業(14百万円)、年会費(13百万円)※R2年3月期決算
 【総支出】 289百万円(一般管理費3百万円、事業費286百万円)
 ※R2年3月期決算
 【自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針】
 国の補助事業への取組や会員数増による自主財源及び栃木県からの補助金の確保に取り組んでいる。